

2018 年度 第 1 回附属校・提携校 英語科授業研究会

附属校英語科研究会、附属校教育研究・研修センター

2018 年 8 月 22 日(水)に、立命館附属校・提携校の先生方を対象に今年度最初の英語科授業研究会を開催した。

今回は昨年度から 3 回連続シリーズ*で検討している「単元の最終目標に設定するタスク」の第 2 回目として「最後に取り組みませ達成させたいタスクにむけての単元計画と授業内容」というテーマで実施した。

小・中学校の先生方に実践報告を頂いたあと、立命館大学 教授湯川笑子先生の講義、そして検定教科書を用いた単元の流れとタスクを考えるグループワークを行った。

(※昨年度の第 1 回目のテーマは「読み物教材・独自選択教材と照らし合わせてその単元の最後に取り組みませ達成させたいタスクとは何か」を検討した。)

参加者は、16 名(立命館小 7 名、立命館中・高 4 名、立命館宇治中・高 3 名、初芝橋本中・高 1 名、平安女学院中・高 1 名)であった。

1. 授業実践報告

① 立命館小学校：吉廣亮子先生 対象 3 年生

単元最終タスクとして 8 文の自己紹介プレゼンテーションを行わせるための単元の流れと、単元以外のところでのこれまでの積み上げが児童のパフォーマンスにどのように好影響を与えているかについてのまとめ。スクリプトの準備段階でのヒントの与え方や、発表時に気を付けるべきポイント、個々のレベルにあった練習の方法、発表時の聞く姿勢の育成についてなど焦点を絞った発表であった。



② 立命館宇治中学高等学校：前川哲哉先生 対象 中学 3 年生

和食についての読み物教材からの発展として、無形文化遺産に指定されている他国の料理について発表することを最終タスクとした場合の単元の流れ。レベル別の内容理解、音読活動、ヒントとなる語彙の選定、ワークシートによるスキップフォールディングについてのまとめと、最終タスクの発表の評価用ルーブリックの提示。また宇治の中学校で作成された Can do リストとそれぞれの学年での To do リストを示し、3 年間の流れについてもお話しいただいた。



2. 湯川笑子教授の講義

「最後に取り組みませ達成させたいタスクにむけての単元計画と授業内容」のテーマに関する講義を通しての到達目標として、(1)中学校英語、高校英語のうち「コミュニケーション英語」用に作られた検定教科書を使い、一般的なユニットを教える際に、使用を勧めたいオーソドックスな単元計画をひな型として理解することと、(2)生徒の特徴や単元の目標、使用教科書の特色をふまえ、(1)で紹介した単元計画から変更を加えるべきか、なぜ変更すべきか、どのように変更すべきかを意識し、変更を実行できるようになることの二つを挙げられた。

今回のお二人の先生方の発表もそうであったように、単元には主に Reading (Theme)-based Unit のような読み物をベースとしたものと、Task-oriented Unit のような読み物ではなく最終タスクありきでそこに向けて単元の流れを作っていくものがあり、それらのモデルユニットを提示していただいた。特にタスクベースの単元である場合、読み物を經由せずに最終タスクまでの積み上げを行っていくため、どのような準備をどの程度行うか（必要な知識、タスクの難易度、必要な語彙・表現など）なども変わってくるため、生徒に合った見極めも必要となってくる。

また小中高の生徒たちの認知レベルにも留意し、様々な人々と国際的な話題について会話や議論ができるような生徒たちを段階的に育てていくことも念頭に置き、どのような教材内容を取り扱い、どのような単元の流れをデザインし、最終的にどのようなタスクを達成できるようにするのかという部分においても教員が責任をもって考えていくべき課題であるというお話もあった。

3. 検定教科書を用いた単元の流れをとタスクを考えるグループワーク

校種ごとに3グループに分かれ、検定教科書の題材を用いて単元とタスクを考案し、発表していただいた。全グループが Task-oriented Unit の発表をされた。小学校チームは、高校英語教科書の「水問題」に触れた教材から、最終的にニュースショーの動画を作る単元をデザインされた。中学校チームはキング牧師の“I have a dream”のスピーチを用いて、そのスピーチをアレンジして、自分の望むことを発表するというタスクまでの流れを発表された。高校チームはオリンピック招致のプレゼンテーションの効果について書かれた教材をもとにして、修学旅行で訪れるべき場所の宣伝をするというタスクを発表された。これらの発表に対し、互いに質問をしたり、湯川教授に改善点などのコメントをいただきながら、適切な教材選定やタスクデザインについて確認をすることができた。

(記録 立命館中高 松尾由紀、
立命館小 三ツ木由佳、編集 附属校教育研究・
研修センター 羽田澄)

